

# 住みやすい国コーパスの語彙教育への活用

## —語彙教育のための基礎的調査—

(Das Sumiyasuikuni-Korpus und seine Einsatzmöglichkeiten im Wortschatzunterricht:  
Grundlegende Untersuchungen zum Vokabelunterricht)

村田裕美子 Murata, Yumiko (ミュンヘン大学 LMU München)

宮野谷希 Miyanoya, Nozomi (サラエボ大学 Univerzitet u Sarajevu)

守時なぎさ Moritoki, Nagisa (リュブリャーナ大学 Univerza v Ljubljani)

中島晶子 Nakajima, Akiko (パリ・シテ大学 Université Paris Cité) フメリヤク寒

川クリスティナ Hmeljak Sangawa, Kristina

(リュブリャーナ大学 Univerza v Ljubljani)

スルダノヴィッチ イレーナ Srdanovic, Irena

(プーラ大学 Sveučilište Jurja Dobrile u Puli)

トリチコヴィッチ ディヴナ Trickovic, Divna

(ベオグラード大学 Универзитет у Београду)

李在鎬 Lee, Jaeho (早稲田大学 Waseda University)

## 要旨 / Zusammenfassung

本論文では 2022 年 12 月に公開した「住みやすい国」プロジェクトの概要を述べた上で「住みやすい国コーパス」(<https://sumiyasui.jp.org/>) を利用した分析事例を紹介し、学習者コーパスが言語知識を測るためだけでなく議論の場を提供するような教材としても利用できる可能性があることを示す。分析事例では「住みやすい国コーパス書き言葉編」を用いて (1) 「住みやすい国の条件」としてどのような語が出現し、(2) その語がどのような文脈で用いられているのか、その国の特徴を捉える。データには、ドイツ、セルビア、クロアチアの日本語学習者と日本の大学生合計 80 名分の意見文を用いる。分析方法では量的分析を行った後に質的分析を行った。分析の結果、例えば、ドイツとクロアチアで多用されていた「政治」は、国によって個人と「政治」の関わり方に違いあることが明らかになった。このように学習者コーパスは、データの内容に着目することで、他者と自分の意見を比較し、類似点や相違点を見つけることができるため、日本語教育の現場で教材として活用できると考えている。

Dieses Papier gibt einen Überblick über das im Dezember 2022 veröffentlichte „Sumiyasuikuni-Projekt“ (<https://sumiyasui.jp.org/>) und zeigt Beispiele von Analysen, die mit dem „Sumiyasuikuni-Korpus“ durchgeführt wurden. Anschließend wird das Potenzial des Korpus für den Einsatz in der Lehre beschrieben, wobei das Lerner-Korpus nicht nur zur Messung von Sprachkenntnissen, sondern auch als Diskussionsforum genutzt werden kann. In der Analyse-Fallstudie wird das Sumiyasuikuni-Korpus in der schriftlichen Version verwendet, um (1) zu untersuchen, welche Wörter als „Bedingungen für ein lebenswertes Land“ vorkommen, und (2) in welchen Kontexten diese Wörter vorkommen. Die Meinungen von 80 deutschen, serbischen und kroatischen Japanischlernern sowie japanischen Universitätsstudenten wurden als Daten verwendet. Die Methode der Analyse war quantitativ, gefolgt von einer qualitativen Analyse. Das Ergebnis war zum Beispiel, dass die Verwendung des Wortes „Politik“, welches von deutschen und kroatischen Studierenden häufig genannt wurde, von Land zu Land und von Person zu Person unterschiedlich verwendet wird. Auf diese Weise kann das Lerner-Korpus als Lehrmaterial im Japanischunterricht eingesetzt werden, denn durch die Konzentration auf den Inhalt der Daten können die Lernenden ihre eigenen Meinungen mit denen anderer vergleichen sowie Ähnlichkeiten und Unterschiede finden.

## 1 背景と目的

コーパスとは、言語研究のためのテキストデータの集合であり、学習者のことばを集めたものを学習者コーパスという(李ほか 2018)。学習者コーパスを調べることで、習熟度に応じた言語使用の実態を具体的に把握することができる(石川 2012、野田・迫田(編) 2019)。こうした背景から、世界中でコーパス開発がなされており、日本語に関しても複数のコーパスが提案されている。例えば、現代日本語の書き言葉を均衡性を重視して収集した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(山崎 2014)、現代日本語の会話に注目して収集している『日本語日常会話コーパス』(小磯・伝 2017)、日本語学習者の作文と会話データを収集した『多言語母語の日本語学習者横断コーパス I-JAS』(迫田ほか 2020)などが知られており、様々な研究成果をあげている。これらのコーパスは、いわゆる大規模コーパスと呼ばれるもので、統計的なサンプリングの方法を用いて、データ量を大きくすることで、研究資源としての科学性を確保するという考え方に基づくものである。こうしたコーパスは、コーパス設計からデータ収集に至るまで長い期間の研究・開発が必要になる。これにより、様々な分析タスクに対応可能な汎用的データが作られるのである。

大規模コーパスとは反対の方向として、特定のタスクに特化した小規模コーパスが存在する。自作コーパスとも言われるもので、特定のタスクのために個人ないしは小規模研究グループが構築するコーパスのことである(李 2020)。例えば、アカデミックライティングの実態を調べるため、意見文を収集したコーパス(伊集院ほか 2012)や外国人の介護士の日本語使用の問題を考察するため、介護記録を収集したコーパス(小林 2017)や「やさしい日本語ニュース」の読みやすさの程度を明らかにするため、NHKの「NEWS WEB EASY」の記事を収録したコーパス(田中・李 2017)などが該当する。これらの小規模コーパスはできるだけシンプルな設計で、柔軟性のあるデータ収集の方法で作られるため、大規模コーパスに比べ、低い開発コストでコーパスを作ることができる。こうしたメリットを活かし、本研究グループでは、「住みやすい国コーパス」を作っている。本コーパスは、ヨーロッパにおける日本語学習者の意見文を収録したデータである。

以下では、「住みやすい国コーパス」の開発の経緯と現状を紹介する。そして、「住みやすい国コーパス書き言葉編」を利用した研究事例を示す。具体的には、「政治」「安全」「犯罪」「環境」「自然」という語を取り上げ、ドイツ、クロアチア、日本の大学生たちがどのような文脈で使っているのかを明らかにする。これに基づいて、コーパスデータを日本語教材として利用した教育実践の可能性を検討する。とりわけ異文化理解教材としてコーパスの利用可能性を考えてみたい。

## 2 「住みやすい国コーパス」の現状

### 2.1 開発の経緯

本コーパスは、2014年の開発当初、非漢字圏の日本語学習者コーパスが非常に少なかったため、特にヨーロッパの日本語教育に貢献することを目的として開発し始めたものである。当初はドイツ語話者の習得研究に活用することを目的とし、ドイツ語圏の日本語学習者の話し言葉と書き言葉のデータを収集したものであった（GLJコーパスプロジェクト（German Learners' Corpus of Japanese Language：村田・李 2017））。話し言葉はOral Proficiency Interview（OPI、鎌田ほか 2020）の基準に沿って収集した音声を文字化し、同様の手法で収録しているコーパスデータとの比較を可能にした（村田・李 2015）。また、書き言葉は「住みやすい国の条件とその理由」というテーマの意見文を書いてもらう方法で作成し、話し言葉とあわせて一般に公開した（村田 2021）。現在、2023年4月の時点で、話し言葉編では、ドイツ語話者の日本語学習者45名の文字化資料を、書き言葉編では、合計147名のデータを公開している（<https://sumiyasui.jpn.org>）。なお、本論文では、現在活動を広げている書き言葉編について話を進める。

意見文の課題を「住みやすい国の条件とその理由」というテーマに設定したのには、2つの理由がある。まず、1つは、どのようなレベルでも何か表現できるのではないかと考えたからである。例えば、「〇〇に××があります」といった存在文や「～からです」といった理由文であれば、初級の早い段階で教科書に出てくるため、初級であっても初級の学習者なりに文を産出することができる。さらに、習熟度が上がるにつれて、抽象的な内容でも述べることができるため、様々なレベルの学習者に扱えるテーマなのではないかと考えたからである。そして、もう1つは、「住みやすい国の条件とその理由」というテーマなら、政治面からも、経済面からも、そして文化面からも記述することができるのではないかと考えたからである。本コーパスは対象者が大学生以上であるため、日本語は初級であっても、課題自体はやや抽象的である方が興味を持ってもらえるはずであるという点を考慮した。

こうして始まったコーパス開発であるが、その後、「住みやすい国の条件とその理由」というテーマは、自分が住む国や育った環境によって意見が異なるということがわかり、研究協力者が増えたため、ドイツ以外のヨーロッパの国でもデータの収集が始まった。このように、現在は、情報通信技術の急速な進展により個人でも、小規模であればコーパスを構築することが可能であり、マイノリティ言語や特定の用途に応え得る独自のコーパス開発が実現できるようになった。

### 2.2 データ収集方法

本コーパスデータの収集方法は基本的に次の(1)から(4)のとおりである。

- (1) 調査の趣旨を説明し、調査同意書の内容を確認してもらったあと調査協力者からの同意をもらう。
- (2) 学習者の背景を調査し、a. 教育言語または母語、b. 日本語学習歴、c. 日本滞在歴などを確認する。
- (3) 書く課題の調査方法を提示する。手順と指示内容は、次の d. から h. である。d. 課題提示はその国の言語で行い、e. 分量は 400 字から 1000 字までとし、f. 提出はコンピューターを使って自宅で書いたテキストを Google フォームを使用し、オンラインで提出してもらう。なお、g. 意見文の提出は課題提示後 1 週間以内とし、この期間内であれば、課題執筆にかける時間は問わない。また、日本語学習者には、h. 辞書などの使用は認め、日本人の友人や知人には手伝ってもらわないことを条件とする。また使用した辞書等についても回答してもらう。
- (4) 日本語学習者のみ、客観テストの SPOT を受けてもらう。

調査は、SPOT を受けてもらうところで一旦終了するが、日本語学習者には後日、作文のフィードバックを行う。

### 2.3 収録データの概要

2023 年 4 月現在、公開している合計 147 名のデータの内訳は表 1 のとおりである。学習者のレベルは、話し言葉編は OPI 準拠であり、書き言葉編は日本語の客観テスト「SPOT90 (Simple Performance-Oriented Test、小林 2015)」を利用している。また、今後もさらに他のヨーロッパ地域の学習者データも収集・公開していく予定である。

表 1 コーパス収録データ内訳 (書き言葉編)

母語/教育言語	レベル	人数
ドイツ語	上級	20
	中級	20
	初級	20
セルビア語	中級	20
クロアチア語	中級	20
スロベニア語	(初)3 (中)13 (上)1	17
ボスニア語	(初)4 (中)4 (上)1 (未受験)1	10
日本語	-	20
(合計)		147

以下の作文は、収録されている書き言葉編データのドイツ語話者中級日本語学習者の例である。ドイツ以外の学生の作文例もこの論文の末尾に掲載する。

住みやすい国は私の意見では市民のみんなにとって住みやすい国である。

一つの条件は教育の事です。住みやすい国にはいい教育制度が必要です。学校はみんなが参加できるのは大事です。そのため学費がなければいいと思います。なぜならもし学費が高かったら、あまりお金がない家族の子供が学校に参加できないからです。

もう一つの点は仕事生活の事です。仕事で普通には8時間ぐらい過ごせばいい生活ができます。健康のため一日で仕事だけしなくて、買い物の時間や趣味をする時間が必要です。なぜなら毎日仕事しかなかったら健康にも悪し、会社のため生きてるのに意味がありません。それに背景や性別に関係なくて、みんなが同じ仕事で同じ給料をもらえたら本当にいい国です。

次の点は政治の事です。政治が国民のみんなを平等に扱わなければならない。みんなが政治に参加できる制度が大切です。なぜなら何か問題があれば、そしてその問題を変えたいと思ったら何か方法がある必要です。

最後に病気になるときみんなが医者へ行かなければなりません、本当にみんなが行けるため健康保険が必要です。保険証を持っていない人は医者で高い代金をしなければなりません。そうならあまりお金を持っていない人は病気のときに医者へ行けません。健康保険の制度では普通にはみんなが医者へ行けます。

短く言えば、住みやすい国は、みんなを平等に扱う国です。みんなが背景に関係がなくて同じような生活できればいい国だと思います。

以下、収録されている書き言葉編コーパスのサイズ、統計情報を記す。

表2 書き言葉編のデータ情報とサイズ

母語/教育言語	レベル	協力者数	SPOT 平均得点	延べ語数	異なり語数
ドイツ語	初級	20	50.85	5,755	2,213
	中級	20	66.65	8,116	2,837
	上級	20	79.45	8,455	3,022
セルビア語	中級	20	67.35	5,405	2,093
クロアチア語	中級	20	65.90	5,973	2,209
スロベニア語	初/中/上	17	63.65	6,500	2,161
ボスニア語	初/中/上/未	10	60.56	4,689	1,607
日本語	/	20	/	7,557	2,806

延べ語数、異なり語数は、UniDic+McCabの解析結果に基づいて計算

### 3 研究事例

ここからは「住みやすい国コーパス」の書き言葉編に収録されているデータを用いた研究事例を紹介する。

研究課題は、次の2つである。

課題 1: 「住みやすい国の条件」として、国ごとにどのような語が出てくるか。

課題 2: 課題 1 で出てきた語が、国ごとにどのような視点で述べられているか。

本研究の背景として、2つの先行研究を挙げる。マルコヴィッチ・トリコヴィッチ・ベルセヴィッチ (2015) は、日本語で作文を書くとき、学習者は、語彙の選択を誤り、言いたいことから外れてしまうことがあることを明らかにした。

例えば、「生活」と書くべき文脈で「人生」と書き、書き手が本来伝えなかったことが伝わらなくなるような場合である。また、本研究と同じコーパスを用いた村田・トリチコヴィッチ・李（2020、2022）では、同じテーマ「住みやすい国の条件とその理由」で書いた作文を量的・質的に分析している。その結果、量的分析ではどの国でも共通して多用される語であっても、質的分析で分析対象語の前後の文脈を読んでいくと、実際は学習者がそれぞれ異なる視点で捉えていることが分かった。例えば、「社会」という語は、ドイツ、セルビア、日本の学生の作文で多用されていたが、その使い方、文脈を見ていくと、ドイツでは、安全や安心が保証される社会が、セルビアでは機会が平等に与えられる社会が、日本ではより良い人間関係が築けるような社会が重要であると述べられ、国によって「社会」のどのような側面が重要であるかが異なることが明らかになった。

本研究では、村田・トリチコヴィッチ・李（2020、2022）の発展形として、共通して用いられていた語ではなく、国別で現れる類似する別の語に着目し、その語がどのような文脈で用いられているかを明らかにしたい。

## 4 データと分析方法

4章では、4.1で分析に使用したデータについて、4.2で分析方法について述べる。

### 4.1 分析データ

本研究では、2017年5月から2022年12月までに収集したドイツ、セルビア、クロアチアの中級日本語学習者60名（各20名）と日本の大学に在籍する学生20名の作文データを利用する。

作文の課題は、3章で紹介している「住みやすい国の条件とその理由」で、データのサイズは表2のとおりである。

表3 1人あたりの平均使用頻度

	人数	延べ語数	異なり語数	TTR
ドイツ	20	406.55	148.55	0.37
セルビア	20	271.05	108.80	0.40
クロアチア	20	298.10	114.10	0.38
日本	20	376.30	144.90	0.39

延べ語数、異なり語数の算出は、解析辞書 UniDic と形態素解析エンジン MeCab の解析結果に基づいたものである。また、TTR (Type/Token Ratio) は異なり語数を延べ語数で割った値であり、語彙使用の豊かさを示す指標である。つまり、TTR が高ければ高いほど、多様な語彙を使っていると解釈される。表3を見ると、延べ語数としては、ドイツの作文がほかの国の作文と比べると多いが、TTR を見ると、4つの国に差はあまりないことがわかる。

## 4.2 分析方法

課題1では量的分析を、課題2では、質的分析を試みた。

まず、課題1「住みやすい国の条件」として、国ごとにどのような語が出てくるかを調べるために、まずは「KH Coder」(Ver.2.00f) (樋口 2014) を用いて、国ごとに共起する語/共起しない語を調べた。さらに、対応分析を行い、国ごとに現れる特徴的な語を調べた。対応分析は、コレスポネンス分析とも呼ばれており、行の項目と列の項目の対応を二次元のマップに可視化する多変量解析の手法である。出現パターンの似通ったグループを取り出す手法として、計量テキスト分析では広く利用されている(樋口 2014: 150)。

次に、課題2では、課題1で出てきた語が、国ごとにどのような文脈で用いられているか、特定の語の前後の文脈を目視で調べた。

## 5 結果

### 5.1 量的分析の結果(課題1)

この分析で対象とした品詞は、「名詞」「サ変名詞」「固有名詞」「組織名」「地名」「形容動詞」「形容詞」で、最小出現数を14とした。分析対象とする品詞に「動詞」と「副詞」を含めなかった理由は、「動詞」や「副詞」は「名詞」や「形容動詞」に比べると、バリエーションが少なく、話題による影響を受けにくいと考えたからである。

図1の作文中出现する語と国との共起ネットワークを見ると、「必要」「良い」「生活」「自分」は国に関係なく共通して出現していることがわかる。「住みやすい国の条件とその理由」というテーマで作文を書く時に用いられやすい語ということである。作文の中で「仕事」について述べていたのは、日本を除く3か国である。他の国と線が結ばれていない語は、特にその国の学生が作文で用いていた語であることを表す。例えば、日本では「インフラ」「交通」「移動」「環境」「気候」などが、セルビアでは「家族」「教育」「給料」「自由」「経済」などが、クロアチアでは「自然」「犯罪」「クロアチア」などが、ドイツでは「安全」「便利」「社会」などがその国の学生が用いていた特徴的な語であると言える。

図2の対応分析の結果を見ると、成分1と成分2のイナーシャの寄与率の累積値が79.97となり、モデルとしては十分な精度の分析ができている。対応分析では、出現パターンに取り立てて特徴のない語が、中心である原点(0,0)の付近に位置するものである(樋口 2014)。今回の結果では、ドイツが原点付近に位置していることから、ドイツの語は特徴がなく、原点から離れた、セルビア、クロアチア、日本の語がその国を特徴づける語であると解釈できる。セルビアの「教育」や「法律」、クロアチアの「犯罪」や「人口」、日本の「インフラ」や「移動」などがそれである。



「犯罪」「安全」が、実際にどのような文脈で用いられているのか、さらにクロアチアと日本に着目し、それぞれの国で用いている「自然」と「環境」がどのような文脈で用いられているのかを調べる。いずれも、用いている語が違うだけで、言いたいことは同じである可能性があるため、詳しく分析することにした。

なお、4 か国で共起していた「生活」や、セルビア、クロアチア、ドイツで共起していた「仕事」、セルビア、クロアチアで共起していた「お金」は、すでに調査を行っているため（村田 2022、村田ほか 2023）、今回はそれ以外の語を分析する。そのため課題2ではセルビアを除く分析になっている。

## 5.2 質的分析の結果（課題2）

### 5.2.1 ドイツとクロアチアの学生が条件にあげた「政治」

(1) から (3) はドイツの学生が「政治」について述べている文である。

- (1) みんなが政治に参加できる制度が大切です。（ドイツ 56）
- (2) 選挙があると自分の意見で政治に影響をできて、政治家に人達は大事だと思ふことが表れる可能性があります。（ドイツ 65）
- (3) デモクラシーの中で国民の個人は自分の意見で政治に携わることができます。（ドイツ 69）

ドイツの学生の作文を見ると、個人と「政治」の関わり方、国民の政治参加の重要性について述べていることがわかる。では、クロアチアの学生の作文ではどうだろうか。(4) から (6) はクロアチアの学生が述べている「政治」についてである。

- (4) 住みやすい国はいい政治があるし、そして税金が低いです。（クロアチア 34）
- (5) 良質の教育、良い医療制度、政治の安定、言論の自由 [中略] とかが重要だと思ふ。（クロアチア 36）
- (6) 国や社会の法律や習慣を決めるものはその国や社会の人だと思いますので、住みやすい国ができることは政治の問題になるでしょう。（クロアチア 14）

クロアチアの学生の作文を見ると、国の「政治」の在り方（「いい政治」）について、安定した「政治」が重要であると述べていることがわかる。

「住みやすい国の条件」としてその国の政治について触れることは驚くことではない。どの国も、政治の参加は重要であり、また政治が安定していることは大切である。しかし、「政治」という語に着目し、国ごとに彼らが書いた作文を読んでいくと、「政治」のどのような側面を取り上げるのか、あるいは、どのように表現するかが、国によって異なることが明らかになった。ドイツとクロアチアの学生の作文を比べると、「自分」と「政治」との距離が、ドイツの方が近いように感じられる。

### 5.2.2 ドイツの学生が条件にあげた「安全」とクロアチアの学生が条件にあげた「犯罪」

(7) から (9) はドイツの学生が述べている「安全」についてである。

- (7) 安全性は大切なポイントです。心配がないために戦争がない国に住みたいです。(ドイツ 18)
- (8) 社会国家や福祉国家から生じてきた安全も生活の質に大きな影響を与えています。(ドイツ 52)
- (9) (安全と自由が重要だ) ある所で毎日暴力か死の恐れがある場合も、圧制者が政府にコントロールされる場合もそのような所が住みやすいと言われるわけではないからである。例えば平和ではなかったら、安全な生活は無理であり、(ドイツ 57)

ドイツの学生の作文を見ると、戦争がない、平和で、福祉などの制度が整っていることが「安全」と共起し、国レベルでの「安全」の重要性について述べていることがわかる。では、クロアチアの学生の作文ではどうだろうか。(10) から (12) はクロアチアの学生が述べている「犯罪」についてである。

- (10) (カナダは) 緑が多いし、生活の質もいいし、家も広くて、きれいだし、犯罪率も低いから、泥棒が誰かのうちに入ってくる心配わけがない。(クロアチア 06)
- (11) 犯罪が少ないなら、お金の問題はないはずだ。(クロアチア 11)
- (12) 住みやすい国では犯罪者がいない。夜スーパーへ行くなら、泥棒されているを感じたくない。(クロアチア 33)

クロアチアの学生の作文を見ると、泥棒がいないこと、お金の問題がないことが「犯罪」と共起し、暮らしの中の「犯罪」について書かれている。個人レベルでの「安全」の重要性について述べていることがわかる。

### 5.2.3 クロアチアの学生が条件にあげた「自然」と日本の学生が条件にあげた「環境」

(13) から (15) はクロアチアの学生が述べている「自然」についてである。

- (13) リラックスした生活を楽しむなら、ビーチや自然の多い国がいいと思う。(クロアチア 11)
- (14) その理想的な国の国民は自然のことを守らなくてはなりません。(クロアチア 15)
- (15) 綺麗な自然と海の近しさは私に大切ですから、いい住んでいる国にはそんなことがあるはずです。(クロアチア 34)

クロアチアの学生の作文を見ると、ビーチや海などが「自然」と共起しており、自然環境に関心を向けていることがわかる。では、日本の学生の作文ではどうだろうか。(16)から(18)は日本の学生が述べている「環境」についてである。

(16) 生活するにあたってストレスにならない程度の環境であることが重要です。

(日本 8)

(17) 公共交通機関でも複数の言語アナウンスが流れ、現地の人のみならず、観光客にとってもわかりやすい環境が整っている。(日本 11)

(18) 生活環境、職場環境が清潔に保たれていることは体調や精神面に大きな影響を与える。(日本 19)

日本の学生の作文を見ると、ストレスや公共交通機関の整備、職場などが「環境」と共起しており、自然環境よりも生活環境に関心を向けていることがわかる。

## 6 考察

### 6.1 調査結果からわかること

本調査では、小規模コーパスを用いて、「住みやすい国の条件」としてどのような語が出てくるか、その語がどのような視点で述べられているかを明らかにし、その国の特徴を捉えることを試みた。その結果、ドイツとクロアチアの2か国で共通して多用されていた「政治」がどのような文脈で用いられていたかを調べると、ドイツでは、個人が「政治に参加できる」「政治に携わることができる」ことの重要性を述べ、クロアチアでは、個人の政治参加についてはあまり触れず、国の政治が「安定している」ことの重要性を述べていることがわかった。また、ドイツで多用されていた「安全(である)」とクロアチアで多用された「犯罪(がない)」という語がどのような文脈で述べられていたかを調べると、ドイツでは、「社会国家、福祉国家から生じた安全」のように国レベルの視点から述べられているのに対して、クロアチアでは「犯罪率が低ければ、泥棒が入ってくる心配がない」のように日々の暮らしの視点から述べられていることがわかった。

さらに、クロアチアと日本の2か国の学生の作文に出現していた「自然」と「環境」を比較すると、クロアチアの学生は自然環境に関心を向け、日本の学生は生活環境に関心を向けていることも明らかになった。

言うまでもないが、この分析ではどちらの国の作文の内容の方が良いかという優劣をつけているのではない。どの指摘も重要な側面であることは間違いない。しかし、ある語に着目して、その前後の文脈を国ごとに読んでいくと、類似する語でも、視座や焦点の合わせ方が少しずつ異なることが明らかになった。さらに今後、1人ひとり個別に見ていくことで、また国ごとに見えてきた内容とは異なる傾向が見えてくるだろう。

今回の分析結果をふまえて、分析方法について明らかになったことを述べる。今回の分析は初めに量的分析を行った。その結果、国単位で共通する、あるいは共通しない「語」の特徴を発見することができた。次に、その語を出発点として質的分析を行った。その結果、同じテーマで書いているからこそ見えてくる、そこに住んでいる人々の考えの相違点や類似点に着目できた。このように量的分析を発見ツールとして用い、そこから質的分析を始めることで、70本の作文を1つ1つ見ていくだけでは観察できない視点で内容を捉えることができたと言える。

## 6.2 日本語教育に生かすには

本研究を日本語教育に生かすには、どうしたらよいだろうか。大きく2つの視点から提案したい。1つはコーパスを教材に取り入れること、そして、もう1つは分析方法を授業に取り入れることである。

まずは、コーパスを教材に取り入れることを提案する。

これまで日本語の授業では、作文の授業でも読解の授業でも、日本人が書いたテキストを利用するのが主であった。そこで、本論文では、学生が書いた作文を生教材として利用することを提案したい。そのねらいとして、(1) 言語知識や技能の向上、(2) 議論の場の提供の2つを挙げる。

(1) の言語知識や技術の向上には、コーパスでも主に日本の学生の作文が有効である。読解教材として、生(なま)のテキストであるため、多様な語彙や表現の学習が可能である。また、同世代の学生が書いた意見であるため、内容にも関心を持ってもらえるはずである。(2) の議論の場の提供には、様々な国の学生の作文が有効である。他国の歴史やそこで生きる人々の考えを知る学習として利用できる。また、自分が同じテーマで書いた作文を照らし合わせることで、自分自身の考えを再認識し、考えを深める学習としても有効であると考えている。

次に、分析方法を授業に取り入れることを提案する。

すでに述べているように、量的分析の結果を発見ツールとして用い、そこからテキストを読んでいくものである。ある語に着目して、その前後にどのようなことが書かれているか、ある語と共起する語との関係を調べ、そこから書き手の意見を推測したり、国ごとに、あるいはレベルごとに、あるいは無作為にAさんとBさんのテキストを選び、比較しながら、ある語がどのような視点で書かれているか、ある語のどのような側面が重要であると書かれているかを読んでいくといった方法である。具体的には、共起ネットワークの図や対応分析の図を用いて、学習者自身が気になる語に狙いを定め、その語を出発点として、その前後の文、さらに、全体の文を読み解いていく方法である。そこには作文を1つずつ見ていくだけでは観察できない発見があるのではないかと考えている。

## 7 まとめと今後の課題

本論文では、まず、ヨーロッパ発信の小規模コーパス「住みやすい国コーパス」について紹介した。そして、そのうちの「住みやすい国コーパス書き言葉編」を利用した研究事例を述べ、「コーパス」を言語知識を測るためだけでなく、教材として利用してはどうかという提案をした。

「住みやすい国コーパス」は、現在、7か国、8名のメンバーで、特に意見文を集めた書き言葉コーパスの開発を行っている。2023年8月現在、147名分のデータを収録している。今後は、協力者、協力地を増やししながら、ヨーロッパ発信のコーパスとして、さらに広めていきたい。

「住みやすい国コーパス書き言葉編」を用いた研究事例では、量的分析と質的分析の特徴を活かした分析を行った。まず、量的分析を、語の使用頻度から特徴を発見するためのツールとして用い、そこから作文を読み解いていった。その結果、政治や安全性、または環境に関して、どのような側面を取り上げているのかが国によって少しずつ異なることが明らかになった。

今後は、このような違いが読み取れるコーパスを授業の教材としても利用し、その効果を検証していきたい。

### 謝辞

本稿は、第29回ドイツ語圏大学日本語教育研究会シンポジウムでの発表内容に加筆・修正を加えたものです。執筆にあたり、会場内で貴重なご意見をくださった皆さまにお礼申し上げます。また、調査に協力してくださった学生の皆さまに心より感謝申し上げます。

### 【資料】

#### 学習者作文例（クロアチア）

いい住んでいる場所は優しい人がある所だと思います。人間は強いすぎます、少し怖いんです。なぜなら、人は何も破壊できるし、時々酷いだし、わがままです。もちろん、いい人もありますが人類は元も不完全です。良い国は良い人があると思います。

住んでいっる安い国はいい政治があるし、そして税金が低いです。そんなことは空想みたいかもしれませんが。綺麗な自然と海の近いさは私に大切ですから、いい住んでいる国にはそんなことがあるはずです。

この国に住んでいる場所はたぶんもっと大切です、どんな国も、次のことがあれば、いい人生ができます:例えば服と食べ物の店は楽しいだと思いますからよく買い物に行きます。そう言えば完全な町は店やコンビニがいっぱいある方がいいと思います。もちろん、安い値段があるストアはもっと良いです。大きいな都市なんか苦手です、うるさくて、にぎやかすぎますからです。小さな町が一番いいだと思うからそんな町は住んでいる快適です。

## 学習者作文例（日本）

私の考える住みよい国とは、生活する上で最低限必要なものが手に入りやすい国である。例えば、水や食べ物。これらは言うまでもなく、生きることに直接関わる必要不可欠なものであり、これらが人々にとって高価すぎたり人口に対して量が少なすぎたりすると、その社会に住みづらくなる原因となってしまう。人が生きていく上で常に必要となる食料や水が手に入りやすいということは、人が社会において生活していくための最低限の需要が満たされていることであるといえる。またそれが安価で質が高いものであるほどその社会での生活の質も上がるといえるだろう。他にも、住居や交通機関、学校や病院などの社会インフラへのアクセスも、その国への住みやすさに直結している。長期間にわたって滞在するための住居、職場や商店への移動手段は人が教育や医療といったサービスを受けるためには欠かせない。それらが手に入りやすいほど、人々は容易に社会生活を送ることが出来る。さらに、物質的なものだけでなく、社会における人間関係や治安の良さといった精神的な価値も、住みやすさに対して大きな意味を持つ。社会において他人との繋がりがもたらす安心や、むやみに危険にさらされることはないという安全を感じられるということには、計り知れない価値がある。

### 【参考文献】

- 石川慎一郎 2012. 『ベーシックコーパス言語学』 ひつじ書房, 東京.
- 鎌田修・島田和子・三浦謙一編 2020. 『OPI による会話能力の評価ーテストイン  
グ、教育、研究に生かす』 凡人社, 東京.
- 小磯花絵・伝康晴 2017. 「『日本語日常会話コーパス』のデータ公開方針ー法的・  
倫理的な観点からー」 『言語資源活用ワークショップ 2017 発表論文集』 182-  
191.
- 小林章二 2017. 「介護記録の日本語分析」 早稲田大学日本語教育学会 2017 年秋季  
大会.
- 小林典子 2015. 「SPOT」 李在鎬編 『日本語教育のための言語テストガイドブック』  
くろしお出版, 東京, 83-91.
- 迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬編 2020. 『日本語学習者コーパス I-JAS 入門 研  
究・教育にどう使うか』 くろしお出版, 東京.
- 田中伊式・李在鎬 2017. 「リーダービリティからみたやさしい日本語ニュースの定量  
的分析」 計量国語学会第 61 回大会.
- 野田尚史・迫田久美子編 2019. 『学習者コーパスと日本語教育研究』 くろしお出版,  
東京.
- 樋口耕一 2014. 『社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目  
指してー』 ナカニシヤ出版, 京都.
- マルコヴィッチ, Lj.・トリチコヴィッチ, D.・ベルセヴィッチ, U. 2015. 「セルビア  
の L2 日本語教育における B1 に適した単語の選択と使用方法について」 『日  
本語教育連絡会議論文集』 28, 83-91.

- 村田裕美子 2021. 「小規模コーパスの構築方法」 李在鎬編『データ科学×日本語教育』ひつじ書房, 東京, 34-53.
- 村田裕美子 2022. 「ドイツ語話者の書き言葉コーパスの開発」 Unkel, Monika (編) 『Beiträge zum Japanologentag 2018 in Berlin, Sektion Japanisch als Fremdsprache, Schriften der Gesellschaft für Japanforschung, Band 5』 Gesellschaft für Japanforschung e.V. (GJF), Köln, 87-102.
- 村田裕美子・トリチコヴィッチ, ディヴナ・李在鎬 2020. 「異文化間能力の育成を目指す計量テキスト分析ードイツ・セルビア・日本の学生を対象にー」 第 64 回大会計量国語学会.
- 村田裕美子・トリチコヴィッチ, ディヴナ・李在鎬 2022. 「ドイツ・セルビア・日本の大学生が考える「住みやすい国」とは何かー複言語・複文化能力の構築を目指す作文活動ー」 『ヨーロッパ日本語教育』 25, 275-286.
- 村田裕美子・トリチコヴィッチ, ディヴナ・李在鎬 2023. 「内容中心のコーパス分析ー住みやすい国コーパスの分析例に基づいてー」 2023 年度日本語教育学会 春季大会予稿集, 103-108.
- 村田裕美子・李在鎬 2015. 「言語テストに基づくドイツ人学習者の対話型コーパス構築」 『第 19 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム論文集』 195-200.
- 村田裕美子・李在鎬 2017. 「ドイツ語話者の話し言葉コーパスの開発」 Unkel, Monika (編) 『Beiträge zum Japanologentag 2015 in München, Sektion Japanisch als Fremdsprache, Schriften der Gesellschaft für Japanforschung, Band 2』 Gesellschaft für Japanforschung e.V. (GJF), Köln, 1-19.
- 山崎誠編 2014. 『書き言葉コーパス』 朝倉書店, 東京.
- 李在鎬 2020. 「日本語教育学の課題に対して計量分析は何ができるか」 『計量国語学』 32, 372-386.
- 李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 2018. 『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』 くろしお出版, 東京.